

## 2020年度事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

2020年度は新型コロナウイルス感染が全世界で拡大し1億人超が感染、死者は250万人を超えました。特に米国の感染拡大が収まらず、死者50万人を超え世界最大の感染国になりました。世界中の往来が激減し国際政治、経済、社会に大きなインパクトを与えました。日本では昨年4月と今年1月の2回、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が出され、東京五輪が1年間延期されるなど各分野に大きな影響を及ぼしました。ワクチン接種開始で早期終息に期待がかかりますが先は見えず、世界ではワクチン供給の公平性や中国、ロシアによるワクチン外交攻勢など新たな問題が出ています。

一方、昨年11月に行われた米大統領選挙で共和党のトランプ氏が敗北し、民主党のバイデン氏が当選しました。バイデン大統領は国際協調体制へ舵を切り、トランプ前大統領が脱退したパリ協定やWHO（世界保健機関）に復帰しましたが、トランプ政権時代に勃発した米中貿易戦争など米中対立は当面、続きそうです。アジアでは昨年6月、中国が香港に対し国家安全法を適用して民主勢力の排除に乗り出しました。1国2制度は事実上崩壊し香港は大きく揺らいでいます。また、ミャンマーでは国軍が今年2月1日、クーデターを起こしアウン・サン・スー・チー国家顧問率いる政権は転覆。民衆の抗議活動が激しく弾圧されるなど国内は騒乱状態となっています。

欧州では、英国が土壇場でEU（欧州連合）離脱に成功し、新たな政治潮流が展開しています。新型コロナ感染拡大に伴い一時、ぎくしゃくしていた欧州各国の関係は落ち着きを見せましたが、ワクチン供給をめぐる再び摩擦が生じています。

こうした情勢の中、アジア調査会は五百旗頭真会長を中心にアジア太平洋地域の調査研究、学術の振興を目的に活動しましたが、新型コロナウイルス感染拡大に大きな影響を受けました。講演会活動などが大きく制約され、予定していた4回の定例講演会は3回となりました。毎年開催してきた国際シンポジウムもオンラインでの開催を予定していましたが、新型コロナ感染問題に端を発する日程上の問題などで、土壇場で開催を断念しました。国際シンポジウムは今年、2回開催する予定です。

最大の事業であるアジア・太平洋賞は大正製薬、日本生命、クリプトン、久永アンドカンパニー、公益財団法人渋沢栄一記念財団、一般財団法人MRAハウス、三輝工業の協賛で第32回目を開催することができました。大賞の『草の根の中国 村落ガバナンスと資源循環』（東京大学出版会）＝東京大学大学院総合文化研究科准教授、田原史起氏＝のほか、特別賞3点の計4点を選び、11月17日に表彰式を開催しました。

情報誌『アジア時報』を10回、発行しました。毎日新聞と連携し、毎月1回、毎日新聞とアジア時報に掲載しているアジア・太平洋賞選考委員らによるリレーコラム「激

動の世界を読む」を継続しました。また、連載3年目を迎えた『灰色の領域～米国の核の傘と非核三原則の交差点』（解説・中島琢磨九州大学准教授）などが高い評価を得ています。これまで例のないメディアの取材記録の全面公開とあって、研究者からも注目を浴びています。今後も膨大な取材記録を精査しつつ掲載していきます。

以上

## (1) 調査・研究

### ◇ アジア研究委員会

アジア研究委員会は諸般の事情により現在、休止しています。

### ◇ 講演会・公開シンポジウム

定例講演会を3回開催しました。

1. 回数／3回
2. 講師／日本人 3人
3. 講演場所／東京 3回

### 2020年度 講演会

#### 〔東京〕

2020年

- ① 五百旗頭 真（アジア調査会長）  
「コロナパンデミック 世界と日本」 7月28日 東京・帝国ホテル
- ② 遠藤 乾（北海道大公共政策大学院長）  
「コロナ危機後の欧州と世界」 10月20日 東京・帝国ホテル

2021年

- ③ 久保 文明（東京大学大学院法学政治学研究科教授）  
「米大統領選挙の総括とバイデン政権の今後」 2月24日 東京・帝国ホテル

### 2020年度 国際シンポジウム

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催いたしませんでした。

## (2) 出版

月刊情報誌「アジア時報」を10回発行（7・8月号、1・2月号は合併号）しました。講演会の講演内容を全文掲載したほか、毎日新聞と協力して作成しているアジア・太平洋賞選考委員らによるコラム「激動の世界を読む」を英訳付きで掲載しました。また、1980年代に毎日新聞が特報した「ライシャワー発言」を含む一連の取材記録を公開する「灰色の領域～米国の核の傘と非核三原則の交差点」の連載も3年目に入り、日米安全保障政策の深層を伝える企画として反響を呼んでいます。

## (3) 事業

### ◇ 第32回「アジア・太平洋賞」

アジア調査会創立25周年記念事業として、平成元年に創設され、内外の優れた著書を顕彰してきた「アジア・太平洋賞」（協賛・大正製薬、日本生命、クリプトン、久永アンドカンパニー、渋沢栄一記念財団、MRAハウス、三輝工業（大阪）は、学界・出版界等の注目のもと、32回目を迎えました。応募総数は96点と、国際的にも注目される賞となってきました。

第32回の受賞著書は下記のとおりで、2020年11月17日に東京で表彰式を行いました。

#### 《大賞》 賞金200万円

『草の根の中国』〔東京大学出版会〕

田原 史起 東京大学大学院総合文化研究科准教授

#### 《特別賞》 賞金30万円

『台湾総統選挙』〔晃洋書房〕

小笠原 欣幸 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

『平和構築を支援する』〔名古屋大学出版会〕

谷口 美代子 国際協力機構国際協力専門員

『アジア経済とは何か』〔中公新書〕

後藤 健太 関西大学経済学部教授

### ◇ 毎日講演センター

各種の講演会や研修会に講師を斡旋する「毎日講演センター」は、不透明な国内政治、経済状況を反映して、各種団体、企業、自治体等からの依頼に応じて、政治・経済などの権威ある講師を派遣し、情報提供に貢献しました。

## 会計報告

2020年4月1日から2021年3月31日までの会計年度における総収入は26,015,341円、総支出は32,138,082円、差引損失金は6,122,741円となり、これを次期に繰り越しました。

## 附属説明書

該当事項がないため、記載を省略します。